令和７年度
事務事業の点検及び評価報告書

【評価内容】評価：事業数：（　　）＝令和７年度評価事業数：前年比増減

Ｓ	＝　３事業	２（１）
Ａ	＝５５事業	５２（３）
Ｂ	＝１２事業	１３（△１）
Ｃ	＝　２事業	２（０）
Ｄ	＝　１事業	０（１）
合計	＝７３事業	６９（４）

※　事業数(令和６年度事業数：６９事業→令和７年度事業数：７３事業)

令和８年９月　恩納村教育委員会

1　はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）：平成 27 年 4 月 1 日改正）

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第２６条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年、作成し公表しておりますが、教育委員会では、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後に、村民に公表（HP 等）するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

（参考）
「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋　平成 27 年 4 月 1 日改正
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条　教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成 20 年 4 月 1 日施行）

2　教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は教育長を含め５名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常の業務については、教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

（１）　教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から、地方公共団体の長が、議会の同意を得て任命します。委員のうち、過半数が同一政党に所属することはできません。更に、地方公共団体の長は、委員の任命に当たって、年齢・性別・職業等に偏りが生じないよう配慮するとともに、保護者である者が含まれるようにしなければならないとされ、村教育委員の任命状況は、保護者１名を含めた４名となっており、年齢等に偏りが生じないよう構成に配慮しております。村教育委員会は教育長と教育委員により構成される合議体です。

令和７年度の教育長・教育委員の任期期間は次のとおりです。(勤続年月数：令和 8 年 3 月 31 日現在)

役職	氏　　名	任　　期	教育委員としての経歴		備　　考
			初就任	勤続年月数	
教育長	宜　志　富　清　博	令和　5 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日	令和　5 年	1 期　3 年	
委　員	宇　江　城　明　美	令和　4 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日	令和　4 年	1 期　4 年	
委　員	千　葉　明　子	令和　6 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日	令和　6 年	1 期　2 年	
委　員	吉　山　佳　子	令和　5 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日	平成 27 年	3 期　11 年	教育長職務代理者(平成 30 年 10 月 1 日付)就任
委　員	比　嘉　律　子	令和　7 年 7 月 1 日～令和 11 年 6 月 30 日	令和　5 年	1 期　2 年 9 カ月	

（２）　教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月 21 日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜、臨時会を開催し必要事項を審議し決定しています。令和 7 年度の教育委員会の会議開催は次のとおりです。

会議の名称	日　　時	場　　所	出席委員	案件等
令和７年 4 月定例会	4 月 21 日(月) 10:00～10:55	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第　１号　恩納村文化情報センター運営協議会委員の委嘱について ４．報告第　１号　令和７年度第２回（３月）恩納村議会定例会一般質問答弁について ５．その他の協議・連絡事項
5 月定例会	5 月 20 日(火) 9:00～10:55	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第　２号　恩納村学校運営協議会委員の委嘱について ４．議案第　３号　指定研究推進事業実施要綱の一部を改正する要綱について ５．報告第　２号　恩納村学校運営協議会委員の委嘱の報告について ６．その他協議・連絡事項

会議の名称	日　　時	場　　所	出席委員	案件等
・6 月定例会	6 月 19 日(火) 9:00～11:53	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第　４号　恩納村特別支援教育就学奨励費給付要綱の一部を改正する要綱について ４．議案第　５号　指定研究推進事業実施要綱の一部を改正する要綱について ５．議案第　６号　恩納村教育委員会事務事業点検外部評価委員会の委員の委嘱について ６．議案第　７号　令和６年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について ７．その他協議、連絡事項
・7 月定例会	7 月 18 日（木） 10:00～10:57	3 階全員協議会室	3 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．報告第３号　恩納村学校運営協議会委員の委嘱について ４．報告第４号　令和７年第３回（６月）恩納村議会定例会一般質問答弁について ５．その他協議、連絡事項
8 月定例会	8 月 21 日（水） 10:00～11:55	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第　８号　恩納村教育支援員会委員の委嘱について ４．議案第　９号　恩納村各種競技等の県外等への派遣に関する補助金交付要綱の一部を改正する要綱について ５．議案第１０号　恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について ６．議案第１１号　恩納村社会教育委員の委嘱について ７．その他協議、連絡事項
9 月定例会	9 月 19 日（金） 10:00～10:50	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．その他協議・連絡事項
10 月定例会	10 月 21 日（火） 10:00～11:18	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ４．報告第　５号　恩納村特別支援教育就学奨励費給付要綱の一部を改正する要綱について ３．その他の協議・連絡事項

会議の名称	日　　時	場　　所	出席委員	案件等
11 月定例会	11 月 21 日(金) 9:00～9:46	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第１２号　恩納村自治公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例に係る意見の申し出について ４．議案第１３号　令和７年度恩納村一般会計補正予算（第５号）に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて ５．その他協議、連絡事項
12 月定例会	12 月 19 日(金) 10:15～10:50	3 階全員協議会室	4 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第１４号　恩納村教育委員会所管施設指定管理者審査委員の委嘱について ４．報告第　６号　恩納村学校運営協議会委員の委嘱について ５．その他協議、連絡事項
１月定例会	1 月 21 日（水） 10:00～	3 階全員協議会室	5 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第１５号　恩納村立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について ４．その他協議、連絡事項
２月定例会	2 月 16 日（月） 10:00～12:00	3 階全員協議会室	4 人	１．前回会議概要の承認について ２．教育長の業務報告について ３．議案第１６号　恩納村立幼稚園の廃園に伴う関係規則の整備に関する規則について ４．議案第１７号　恩納村立幼稚園の廃園に伴う関係規程の整備に関する規程について ５．議案第１８号　恩納村立幼稚園の廃園に伴う関係要綱の整備に関する要綱について ６．議案第１９号　恩納村立学校及び教育機関の職員の人事異動要領の一部を改正する要領について ７．議案第２０号　恩納村立学校教職員自家用自動車の公務使用取扱要綱の一部を改正する要綱について ８．議案第２１号　恩納村立小中学校教材費一部支援事業補助金交付要綱について ９．議案第２２号　恩納村多目的施設の指定管理者の指定について（名嘉真区多目的施設） 10．議案第２３号　恩納村立公民館の指定管理者の指定について（安冨祖地区公民館） 11．議案第 24 号　喜瀬武原多目的ホール施設の指定管理者の指定について 12．議案第 25 号　恩納村自治公民館の指定管理者の指定について(冨着区自治公民館) 13．議案第 26 号　恩納村交流施設の指定管理者の指定について(前兼久・仲泊) 14．議案第 27 号　恩納村立学習等供用施設の指定管理者の指定について 15．議案第 28 号　恩納村多目的交流施設の指定管理者の指定について

				16. 議案第 29 号　恩納村体育施設の指定管理者の指定について 17. 議案第 30 号　恩納村教育支援センターの設置及び管理に関する条例の制定について 18. 議案第 31 号　恩納村教育支援センターの設置及び管理に関する条例施行規則の制定について 19. 日程第 19 議案第 32 号　幼児教育センター設置要綱の制定について 20. 議案第 33 号　令和８年度公立学校管理職の定期人事異動の内示（案）について 21. 議案第 34 号　令和８年度教育委員会職員に係る人事異動の内示（案）について 22. その他協議、連絡事項
会議の名称	日　　時	場　　所	出席委員	案件等
3 月定例会	3 月 19 日（木） 10:00～11：20	2 階庁議室	4 人	１．前回会議概要の承認の件 ２．教育長の業務報告 ３．議案第 35 号　恩納村博物館協議会委員の委嘱について ４．議案第 36 号　恩納村文化財保護審議会委員の委嘱について ５．議案第 37 号　社会教育委員の委嘱について ６．議案第 38 号　恩納村スポーツ推進委員の委嘱について ７．議案第 39 号　恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について ８．議案第 40 号　恩納村スクールカウンセラーの委嘱について ９．議案第 41 号　恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 10. 議案第 42 号　恩納村支援員業務日誌の押印廃止に伴う関係要綱の整備に関する要綱について 11. 議案第 43 号　恩納村フリースクール等利用児童生徒支援補助金交付要綱の制定について 12. 議案第 44 号　恩納村学校給食代替対応等補助金交付要綱の制定について 13. 議案第 45 号　令和 7 年度恩納村一般会計補正予算（第 8 号）について 14. 議案第 46 号　令和 8 年度恩納村一般会計予算について 15. 議案第 47 号　恩納村立幼稚園廃園について 16. 議案第 48 号　恩納村立学校給食センター運営委員会要綱の一部を改正する要綱について 17. 議案第 49 号　恩納村立学校給食センター運営委員会規程の一部を改正する規程について 18. その他の協議・連絡事項

会議の名称	日　　時	場　　所	出席委員	案件等
【参考】 令和７年度 第１回 恩納村 総合教育会議	5 月 20 日(火) 10:30～12:00	3 階全員協議会室	村長 教育長 教育委員 4 名 計 6 名 (事務局) 教育委員会 7 名 総務課 2 名 福祉課 2 名 企画課 2 名	付議案件 １．小学校教材費の支援事業について（議案） ２．喜瀬武原幼稚園小学校施設跡地利用進捗状況について（報告） ３．令和 8 年度こども園設置に向けた進捗状況について（報告） ４．幼児教育センターの設置について（報告） ５．赤間総合運動公園機能強化事業の進捗状況について（報告） ６．恩納村教育ビジョンの令和 6 年度実績と成果及び令和 7 年度取り組みについて（報告） ７．その他情報及び意見交換
【参考】 令和７年度 第２回 恩納村 総合教育会議	11 月 21 日（金） 10:30～12:00	3 階全員協議会室	村長 教育長 教育委員 4 名 計 6 名 (事務局) 教育委員会 8 名 総務課 2 名	付議案件 １．恩納村教育ビジョン進捗状況について（報告） ２．恩納村フリースクール等利用児童生徒支援事業について（報告） ３．恩納村子どもの居場所づくりについて ４．恩納村教育大綱について ５．その他情報及び意見交換

なお、教育委員会で令和７年度中に審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規程・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
２件	１８件	１９件	１６件	５５件

（３）　主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、教育総合会議での報告を行っております。

令和７年度における村及び教育委員会主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期　　日	場　　所	行事等の名称	備　　考
令和７年　４月　１日	村庁舎	令和７年度村職員辞令交付式(村辞令交付)	宜志富教育長
４月　３日	ゆうなホール	村教職員等全体研修会	宜志富教育長・教育委員
４月　８日	うんな中学校	入学式	宜志富教育長（告示）・教育委員
４月　９日	安富祖小学校体育館 恩納小学校体育館 仲泊小学校体育館 山田小学校体育館	入学式	宇江城委員(告辞) 比嘉委員(告辞) 千葉委員(告辞) 吉山委員(告辞)
４月１０日	恩納幼稚園 仲泊幼稚園	入園式	宇江城委員 吉山委員
４月２２日	村庁舎	第１回「自律」プロジェクト会	宜志富教育長
４月２４日	村庁舎	村各種団体定期総会	宜志富教育長
５月１４日	村庁舎	保・幼・小幼児教育推進協議会	宜志富教育長
５月１７日	ふれあいセンター	村文化協会定期総会	宜志富教育長
５月１９日	安富祖小学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
５月２１日	村庁舎	「幸せに生きる力」育成・支援委員会総会	宜志富教育長
５月２３日	恩納幼稚園・小学校	学校訪問計画	宜志富教育長・教育委員
５月２７日	仲泊幼稚園・小学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
５月２８日	山田小学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
５月３０日	うんな中学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
６月１２日	うんな中学校	未来塾開講式	宜志富教育長・教育委員
６月１３日	仲泊小学校	ふれあい給食	宜志富教育長
６月１８日	村庁舎	コミュニティースクール研修会	宜志富教育長
７月２３日	ゆうなホール	「対話」ワークショップ全体研修会	宜志富教育長
７月２４日	村庁舎	「対話」ファシリテーション研修会	宜志富教育長
７月２８日	安冨祖小学校	小学校マイプラン学習研修会（加賀市招聘）	宜志富教育長・教育委員
７月３１日	うんな中学校	中学校マイプラン学習研修会（加賀市招聘）	宜志富教育長・教育委員
８月２４日	ふれあい体験学習センター	うんなアカデミー開講式	宜志富教育長
８月２５日	安冨祖小学校	村教科指定研究発表会	宜志富教育長・教育委員
８月３０日	博物館	博物館自然ゾーン展示オープン記念式典	宜志富教育長・教育委員

１０月５日	山田小学校	運動会	宜志富教育長・吉山委員
１０月１１日	コミュニテイ広場	うんなまつり（オープニングセレモニー）	宜志富教育長・教育委員
１０月１８日	うんな中学校	うんな中フェスタ	宜志富教育長・教育委員
１０月２５日	恩納幼稚園・小学校	運動会	比嘉委員
期　　日	場　　所	行事等の名称	備　　考
１０月２６日	安富祖小学校	運動会	宜志富教育長・宇江城委員
１０月２９日	うんな中学校	うんな魂プロジェクト発表会	宜志富教育長
１１月３日	ゆうなホール	村文化祭	宜志富教育長・教育委員
１１月９日	仲泊幼稚園・小学校	運動会	千葉委員
令和８年　１月　４日	コミュニティセンター	二十歳を祝う集い	宜志富教育長（祝辞）・教育委員
１月２８日	ゆうなホール	恩納村教育の日関連行事　第１部：表彰式 第２部：講演会	宜志富教育長・教育委員
２月１０日	ゆうなホール	教職員対話型ワークショップ	宜志富教育長・教育委員
２月２１日	博物館	村文化展及び生涯学習発表会	宜志富教育長・教育委員
２月２６日	うんな中学校	未来塾閉講式	宜志富教育長・教育委員
３月　７日	うんな中学校	卒業式	宜志富教育長（告示）・教育委員
３月１７日	恩納幼稚園 仲泊幼稚園	修了式・閉園式	宜志富教育長・比嘉委員 千葉委員
３月１８日	安富祖小学校 恩納小学校 仲泊小学校 山田小学校	卒業式	宇江城委員（告辞） 比嘉委員（告辞） 千葉委員（告辞） 吉山委員（告辞）

（4）　研修会・懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。

令和７年度の研修会等への出席状況は、次のとおりです。

日　　時	場　　所	研修会等の名称	備　　考
令和７年５月８日 ～9 日	沖縄市	沖縄県市町村教育委員会連合会総会・研修会	宜志富教育長・教育委員

5 月 12 日～14 日	東京都	全国町村教育長会総会・研修会	宜志富教育長
5 月 23 日	嘉手納町	中頭地区市町村教育委員会協議会総会・研修会	宜志富教育長・教育委員
10 月 24 日	那覇市	沖縄県市町村教育委員会連合会研修会	宜志富教育長・教育委員
令和８年１月 21 日	教育長室	沖縄県市町村教育長オンライン研修会（ZOOM）	宜志富教育長・教育委員

３　事務の点検評価について

令和７年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の８項目とし、毎年度事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

①　現状の内容で継続

②　事業規模を拡大又は縮小して継続

③　事業の廃止

の３項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは１年遅れになることがありますが、この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとします。

評価の方法については、次のとおり５段階で評価しました。

【５段階評価の内容】

Ｓ：目標以上に事業効果をあげることができた。

Ａ：目標が達成できた。

Ｂ：目標が概ね達成できた。

Ｃ：目標が一部しか達成できなかった。

Ｄ：目標が達成できなかった。

以上によって評価された令和７年度事務事業の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

（１）　学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会研修事業 №1	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	県及び中頭地区開催の研修課題に掲げる研修資料等を活用し、教育施策の情報共有を図り、教育に対する見識を更に高める。	計画された県及び中頭地区の研修会等が予定どおり開催された。県・中頭地区で提案・協議された教育課題を認識し、今後の村教育行政に活かすため研修等に参加した。	定例教育委員会の場を活用し、各研修等のテーマ毎に職員から説明を受け、村の現状を把握したうえで課題等を共有し、研修等に参加することができた。	恩納村の取り組んでいる各種事業を把握するとともに、県及び中頭地区開催の研修課題に掲げる研修資料等を活用し、教育施策の情報共有を図り、教育に対する見識を更に高める。	A	①現状の内容で継続
コミュニティ・スクール運営事業 №2	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に１５名以内の学校運営協議会委員を配置する。	コミュニティ・スクールのあり方について、専門家を招聘した研修会を開催し、より充実した学校運営協議会にしていく必要がある。	文部科学省コミュニティー・スクールマイスターを招聘し、全小中学校長、学校運営協議会委員代表２名による合同研修会を開催した。	コミュニティー・スクールの意義や具体的な活動に関する推進方法を学ぶ機会となり、各学校のコミュニティー・スクール推進につなげることができた。	学校により、コミュニティー・スクール推進に差があるため、継続して合同研修会を開催する必要がある。	A	②事業を拡大して継続
校長会・教頭会 №3	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。 現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	教頭会については、全て校長会と合同にするなど、会議の精選を図る必要がある。	今年度より、教頭会をすべて校長会と合同開催とし、第１回、最終回以外はオンライン参加とした。	合同オンライン開催とすることにより、教頭職の働き方改革の一助となった。 校長会・教頭会を通して、恩納村教育ビジョンの推進を図ることができた。	今後も合同オンライン開催形式を継続し、管理職の働き方改革の推進と、村教育施策推進を両立させる必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
教育相談事業 №4	配慮を要する幼児・児童・生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。 学校からの派遣要請を受け、不登校児童・生徒の状況に沿った支援を実施する。	不登校率は、中学校において増加傾向にある。小学校６年時に不登校の児童が中学校入学後も登校できないケースが多い。この傾向は、同じ家庭の兄弟姉妹ほど強く見られ、子育や家庭教育での支援の必要性を表している。 本事業の趣旨を学校だけでなく地域や家庭にも引き続き周知し、関係各課と連携のもと、子育てや家庭教育の支援も視野に入れた展開を行う必要がある。	令和７年度も引き続き教育委員会ホームページだけでなく地域へのポスター掲示による広報を行った。 不登校児童生徒に関する情報を本村福祉課、社会福祉協議会と共有し、不登校の背景にある家庭の教育環境に関する意見交換を行い、支援の一助にすることができた。	訪問相談（70 件）が最多となり、学校の相談体制の中に相談員による支援が深く浸透した。これにより、不登校傾向にある児童生徒との早期の信頼関係構築が進んだ。不登校（23 件）のみならず、友人関係（20 件）や家庭（17 件）、学業・進路（25 件）など、不登校の未然防止や解消に繋がる多角的な相談に対応できた。 【活動実績】 ＜相談形態＞括弧内前年度比 ①来所相談 2 件（-2） ②電話相談 7 件（+2） ③訪問相談 70 件（-7） ④巡回相談 6 件（-5） ＜相談内容＞ ①いじめ 0 件（-2） ②不登校 23 件（-5） ③友人 20 件（＋13） ④教職員 3 件（＋2） ⑤学業・進路 25 件（＋8） ⑥家庭 17 件（+1）	課題にある「兄弟姉妹への連鎖」を防ぐため、兄弟姉妹合同のケース会議を実施する等、具体的な連携が必要。令和 8 年度より設置される教育支援センターを拠点に、学校及び関係機関との連携強化を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会学校計画訪問 №5	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理･運営状況を確認し、学校経営に資する。	学校説明の資料について事前提出を求めているが、当日配布での対応ができないか検討が必要である。	今年度より、学校説明の資料を当日配布としたが、問題なく学校説明、授業参観、意見交換･指導助言を実施することができた。	学校説明の資料を当日配布にすることにより、学校現場の業務負担の軽減につなげることができた。	８時から登校時の様子を参観し、全ての日程が終わるのが１２時を超える場合もあり、１１時半には終了する必要がある。	A	①現状の内容で継続
奨学資金給付・貸与事業 №6	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	給付型では、高校生の応募増となった、引き続き生徒や保護者への周知をしていく。 貸与型では、無利子の村奨学金を活用いただき、家計への負担が少ない形で、村民の有用な人材育成につなげたい。 引き続き、連帯保証人への通知と奨学金滞納者への督促を 1 年ごとに送付し、滞納整理を進めていく。	給付型では、前年同様に生徒及び保護者へ周知を行ったが、申込者が減少した。 貸与型では、無利子の村奨学金を活用していただき、家計への負担が少なるように追加募集を実施し、2 名の申込･決定に繋がった。 連帯保証人や滞納者への通知を送付し、一定数の納付は確認できたが、継続的な支払いには繋がっていない。 ・令和 7 年度時点における滞納者件数　73 件	○給付型申し込み 19 件のうち 18 件の給付を決定した。 県内 11 件　1,100 千円 県外 7 件　1,400 千円 ○高校生給付型奨学金の申し込み 4 件のうち、3 件の給付を決定した。 高校 3 件　150 千円 ○貸与型奨学金申込 21 件のうち 21 件の貸与を決定した。(内 2 名追加) 県内 13 件 4,680 千円 県外 8 件 3,840 千円 前年度比 3,120 千円減 特別貸与 2 件 400 千円 償還額　11,256 千円 前年度比 3,920 千円増 寄付金 2,632 千円	物価高騰等の近年の社会情勢を考慮し、給付型及び貸与型の金額増を検討する。 貸付については、住所要件等の一定条件を満たした場合奨学金の返還を一部免除（条件付き貸与）するなど定住促進も踏まえて検討する。 滞納者については、名簿や異動情報を収集し、引き続き滞納整理に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
キャリア教育事業 ・職場体験学習 ・職場見学 №7	児童生徒を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	各校の SDGs や教育ビジョンの取組を通して、新たな職業観や勤労観が徐々に育まれている。引き続き、事業所リストを更新しつつ事業の充実に取り組んでいく。	職場体験については、令和６年度３月に生徒への希望調査を行い、調整を行った。 地域コーディネーターが、学校の要望に応えるだけでなく、地域から学校へ職業人を紹介することで、新たな職業観・勤労観の育成も行うことができた。また、職場体験実施前にマナー講習会を地域の方に講師を依頼できた。	中学校において、前年度比 13 事業所増となる計 35 事業所を確保し、約 100 名の職場体験を実現した。職種の多様化により生徒の選択肢が広がったほか、事前学習として「マナー講習会」を実施。これにより生徒の目的意識が明確化され、より実践的で充実した職場体験学習となった。 また、小学校においては、職業人講話を実施しており、系統的なキャリア教育を実施できた。	各校において、教育ビジョンの推進等を通じ、児童生徒の職業観・勤労観をより一層育む。中学校では、受入事業所リストを適宜更新し、体験活動等のさらなる充実を図る。また、事業所・学校・教育委員会の三者が振り返りを共有し、連携を深めることで、より質の高い取組を目指す。	A	①現状の内容で継続
幼稚園教諭研修会 №8	村内２幼稚園教諭の資質の向上を図る。 幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	引き続き、主幹教諭研修会、会計年度任用職員研修会を実施し、幼児教育の質の向上を図る。	主幹教諭研修会、会計年度任用職員研修会を開催し、恩納村保育ビジョン、恩納村教育ビジョンを踏まえた幼児教育の推進について共有することができた。	幼稚園職員の幼児の主体性を引き出す環境設定や、一人一人の個性やペースを尊重する関りが充実し、幼児の成長・発達につなげることができた。	幼稚園閉園に伴い事業を廃止する。 令和８年度より「恩納村幼児教育センター」事業として村内幼児教育施設の支援に移行する。	**A**	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業 №9	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	こども園移行による統廃合に伴い、村立幼稚園の備品廃棄については、幼稚園教諭と連携し計画的に実施する。 備品移管については、跡地利用も含めて、協議する必要がある。 また、小中学校や福祉課と連携し、備品の利活用に努める。	各幼稚園の備品を確認し、使用不可の物は廃棄し、使用可能なものについては、保育所や小学校に移管した。 跡地利用については、安富祖幼稚園は未定、恩納幼稚園は学童保育、仲泊幼稚園は地域連携室、山田幼稚園は地域連携室へ移行することとなった。	滞りなく幼稚園備品の移行・廃棄を完了することができた。 跡地利用についても、各地域の状況に合わせて進めることができた。	幼稚園閉園に伴い事業を廃止する。	A	③事業の廃止
幼稚園教育の推進 №10	幼児教育施設の自然環境・人的環境を生かした特色ある幼児教育活動を実施する。	更なる幼児教育の推進に向けた研修内容の充実を図り、持続可能な研修体制を構築するために幼児教育センターを設置する必要がある。 恩納村教育ビジョンにつながる、恩納村保育ビジョンを作成する。	福祉課と連携し「幼児教育センター」設置に向け検討を重ねる。 幼稚園廃止に伴うこども園移行後の村内幼児教育施設への巡回訪問や研修会開催のため設置を確認する。 こども家庭庁、文部科学省資料を参考に福祉課と協働して「恩納村保育ビジョン」の作成に取り組む。	令和８年度より学校教育課内に「恩納村幼児教育センター」を設置することとなった。 学校教育課と新設されるこども未来課との共同運営となる。新たに配置する幼児教育指導主事が事務局を担う。 「恩納村保育ビジョン」を村内全保育施設へ共有することができた。	幼稚園閉園に伴い事業を廃止する。 令和８年度より「恩納村幼児教育センター」事業として村内幼児教育施設の支援に移行する。	A	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
ICT 支援員配置事業 №11	村立小中学校へ ICT 支援員を派遣することで、障害対応、環境整備、マニュアル作成、資料作成、授業支援、校務支援、校内研修会に取り組み、教師の ICT 活用指導力の向上および児童生徒の学力の向上や人材育成を図る。	引き続き、教育振興における備品の整備及び活用に向けてのサポートを行う。	ICT 支援員配置を外部委託し、組織として ICT 支援員を支援する体制を構築した。ICT 支援員を中学校に１名常駐 20 日勤務、4 小学校に 4 名配置し、月 10 日支援員を配置した。支援員が不在のときでもコールセンターを利用し、保守業者との連携を図り、児童・生徒、教員に対して整備した情報機器を活用できるようにサポートした。	令和７年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙によると「5 年生までに受けた授業で、PC などの ICT 機器をほぼ毎日活用した」【村：45.3%　県：30.9%】中学「1,2 年生のときにうけた授業で、PC などの ICT 機器をほぼ毎日使用した」【村：42.7%　県：40.4%】となった。 また教員向けのアンケート調査で支援員に対する良い評価が 84%であった。支援員の資質の満足度は、100%となり、支援が必要との回答は 96%あり、高い水準だった。	支援員の資質向上により教員満足度が向上し、積極的に授業で ICT を活用している。今後も新たな技術の生成AIによる授業やプログラミング教育支援等で ICT 支援員に求められる能力の向上がより求められていくため、委託事業者において研修を計画的に実施するよう連携していく必要がある。	S	②事業を拡大して継続
教員業務支援員配置事業 NO.12	教員に代わり、学習プリント等の準備、採点業務等を行い教員の業務負担軽減を図る。 教職員の時間外業務時間数に関する調査において、「45h 以上 80h 未満」、「80h 以上」を令和 6 年度比各 5%削減する。	令和 6 年度までは、教員業務支援員配置事業を活用し、教員の業務負担軽減を図ってきたが、目標値が教員へのアンケートで負担軽減度 80%以上となっていた。より具体的な数値目標の設定が必要。	教職員の時間外業務時間数に関する調査において、「45h 以上 80h 未満」、「80h 以上」を令和 6 年度比各 5%削減する目標値の設定を行った。	教諭等の時間外勤務時間数「45ｈ以上 80ｈ未満」の延べ件数が約 13.74%減少し、「80ｈ以上」の延べ件数が約 63.79%減少した。	引き続き教員の負担軽減を図り、時間外業務時間数の削減を目的とし、各小中学校に 1 名配置する。	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
就学支援事業 №13	生活保護世帯・非課税世帯・ひとり親世帯や一定の所得基準未満のご家庭の児童生徒に対し、修学旅行費や学用品費等を援助し、教育の充実を図る。	学校の保護者連絡ツールや広報・LINE 等で年３回の周知を引き続き行い、SSW や福祉課等と連携して援助が必要な世帯を把握する必要がある。 令和７年度からオンライン申請を開始するが、情報管理を徹底する等、保護者の不安感を取り除けるような事業運営を行う。	申請手続きの利便性向上を目的として、オンライン申請を導入した。また入学前検診時に、全保護者へ就学援助の案内冊子を手渡しで配布し、制度の周知徹底を図った。学校や福祉課と連携を取り、援助が必要な世帯へのアプローチを行った。	オンライン申請の導入により、約 130 世帯がオンラインでの申請を利用し、申請手続きの迅速化および利便性向上が確認された。 〇認定児童生徒数 （３月末時点） ・R６：３１６名 ・R７：２９９名 〇認定児童生徒割合 （３月末時点） ・R６：３２．６％ ・R７：３２．３％	恩納村の就学援助認定率が小中の合計で県内トップの数字となっている。その理由は何なのか追及する必要がある。また認定となる世帯収入の目安額について２件の問合せがあった為、案内チラシに目安額を表記する必要がある。	A	①現状の内容で継続
スクールカウンセラー設置事業 №14	幼児児童生徒の不登校及びいじめその他の問題行動の未然防止、早期発見及び早期解決を図るため、高度な専門的知識及び経験を有するスクールカウンセラーを設置する。	小学校で不登校が解消せず、中学校入学後も登校できず不登校になるケースが多くなっている。養育や家庭教育で悩む保護者をスクールカウンセラーにつなげるなど、組織的な連携を図っていきたい。	SSW や養護教諭、教育相談担当等が担任と積極的に連携し、スクールカウンセラーを活用するケースが多く見られた。 また保護者からの相談ケースも多く、スクールカウンセラーの専門性を活かすことができた。引き続き、チーム学校の一員としてのスクールカウンセラーの積極的な活用を推進して行きたい。	全国的な増加傾向と同様に、本村でも不登校児童生徒が増加（小学校 10 名→19 名、中学校 16 名→18 名）しているが、SC の活用により以下の成果を得た。 ■相談実績 児童生徒 18 名、保護者延べ 65 名の相談に対応。特に保護者の相談内容の約 8 割（54 名）が「発達障がい」に関連するものであり、専門的知見に基づく助言が保護	不登校の低年齢化および解消されないままの中学校進学という「不登校の長期化」が依然として深刻な課題である。 発達障がいに悩む保護者も多く、特性から不登校に繋がるケースが多々あることから、スクールカウンセラーに積極的につなげるなど、	B	① 現状の内容で継続

				者の不安軽減につながっている。 ■授業参観による支援 22 件の授業観察を実施し、学級内での児童生徒の特性把握や、教職員への具体的な指導助言へとつなげることができた。 ■チーム支援の定着 SC を「チーム学校」の一員として活用する意識が各校で浸透し、組織的な対応力が高まった。	組織的な連携を図っていく。		
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
特別支援員配置事業 №15	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	慢性的な人手不足による支援員の不足が生じないように、人材確保する必要がある。 支援員の資質向上を図るため、研修を実施する。	ハローワークや学校へ依頼し、求人募集を行い人材確保に務めた。 幼稚園３人、小学校１４人、中学校４人配置することができた。 研修を実施することは、できなかった。	保護者アンケートから変化や成長がみられたとの回答が目標の80%以上を上回る 90%であったことから、支援員の資質向上が図られている。 令和７年度は、給与改定や夏休みの継続雇用など勤務条件の改善により人材確保ができた。 また個別面談を行い、次年度への人材確保へつなげることができた。	県の情勢では慢性的な人材不足のため、支援員の不足が生じないように、引き続き個人面談等を実施し、人材を確保する必要がある。 支援員の資質向上を図るため、研修を実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
英語指導助手派遣事業（ＡＬＴ） №16	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	児童生徒の興味、関心をもってもらうような授業づくりやネイティブスピーカーを活用した授業構成を図っていく必要がある。	中学校に１名、小学校に２名、合計３人のネイティブスピーカーを配置することができた。	児童生徒へ英語でのレクリエーション等を通して、英語の楽しさを体験させることができ、また、英語での表現力の向上を図ることができた。 個別面談に基づく配置により、ALT が各校の教育方針にスムーズに適合し、安定した授業運営を行うことができた。	引き続き３月末の個別面談を徹底し、各校の課題や児童生徒の実態に応じた、より最適な ALT の配置と活用（質の高い授業構成）を実施していく。	A	① 現状の内容で継続
対外競技派遣及び中学校部活動支援事業 №17	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	部活動の活躍が見られるようになった。部活動の振興が図れるよう、引き続き適宜予算確保を行う必要がある。県外派遣について一括交付金を活用する。	適宜予算の確保ができ、大会参加費、登録料等も支出することができた。 今年度は、より文化的、体育的活動「部活動」の振興を図るため、要綱改正を行い交通費及び運搬費（楽器等）を補助対象に加えた。	**県外派遣費** 〇派遣対象者 ・うんな中女子ソフト （九州中学校体育大会） ・うんな中女子ソフト （全九州中学生選抜大会） 執行額：3,528,080 円 うち交通費：263,380 円 **県内派遣費** 〇派遣対象者 ・団体なし **大会参加費及び登録料等** 執行額：707,029 円 部活動に必要な消耗品等の予算の確保、執行に努め、部活動消耗品等の充実が図られた。 執行額：528,078 円	部活動の活躍が見られるようになった。部活動の振興が図れるよう、引き続き適宜予算確保を行う必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
諸検査事業 ・知能検査 ・進路適正検査 ・i-check 調査 ・総合学力調査 ・中３学力調査 №18	児童生徒の学力の定着状況や学習状況等を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	諸検査については、全ての学校で有用性を実感している。現行の調査だけでは、認知的な側面を把握することができず、つまずきのある児童生徒への支援に課題が残る。学校現場の声を参考にしつつ認知能力検査の導入を検討する必要がある。 令和７年度より小６年生で総合学力調査を導入する。中学校期につなぐ学力推移を把握し授業改善に活用していきたい。	小中学校において総合学力調査を導入し、その結果を「個別のドリル学習」へ反映させるサイクルを構築した。調査結果に基づき、AI ドリルを活用した個別の課題提示を推進した。業者と連携し、各校のAIドリル使用状況を月単位で把握・提供することで、各校での活用を支援した。	諸検査については、全ての学校で有用性を実感している。総合学力調査の結果と連動した AI ドリルが、長期休業中の課題や自学自習で活用できた。 マイプラン学習の中に、AI ドリルを組み込む事例が増え、自らの課題を把握して主体的に取り組む「自律した学習者の育成」に寄与した。	諸検査の結果を各学校で把握し、引き続き、児童生徒支援、学習指導にいかす。 総合学力調査をもとに、AI ドリルの利用率の学校差等を解消し、自ら学ぶ児童生徒の育成。	A	②事業を拡大して継続
指定研究事業 №19	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	山田小学校の実践を村内学校へ共有し、令和７年度指定校の安冨祖小学校への支援を充実させる。	指定研究校の安富祖小学校に対し、公開授業・研究発表会に向け、校内研修の支援や、県外研究者からの支援をつなげることができた。	９月に安富祖小学校の公開授業・研究発表会を開催することができた。村内外から多数の参観者が訪れ、公開授業と研究発表の内容に対し高い評価を受けた。	安富祖小学校の実践を村内学校へ共有し、令和８年度指定校のうんな中学校への支援を充実させる。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 （令和７年度の課題）	課題克服に向けた取組み （令和７年度の取組み）	事業の成果 （令和７年度の成果）	今後の課題 (令和年８度の課題)	評価	総合判断
小中学校施設整備事業 №20	学校施設の長寿命化を図り長期にわたり良好な教育環境を確保する。	山田小学校の擁壁工事を完了させる。安富祖小学校の駐車場舗装工事を発注する。	山田小学校の擁壁工事を隣接する村道の安全対策を図りながら進めた。安富祖小学校の駐車場舗装工事を発注し、生徒の安全確保に注意しながら工事を進めた。	山田小学校の擁壁工事を完了させた。安富祖小学校の駐車場舗装工事を完了させた。	安富祖小学校の遊具を整備する。恩納小学校に隣接する村道の拡幅に伴い、駐車場の車両動線を変更するための外構設計を発注する。	A	①現状の内容で継続
学校施設維持管理事業 №21	学校施設及び消防用設備を適切に維持管理し修繕する事で、安全で快適な教育環境を確保する。	各小学校の老朽化した建築物及び空調設備、消防用設備、衛生設備等の修繕を行う。	予算及び優先順位等を考慮し、修繕を行い、教育環境の維持管理に務めた。 【令和７年度】 施設修繕費：22,098 千円 （前年度：19,853 千円）	各小中学校の保守点検、消防用設備・空調設備・衛生設備等 67 件(前年度：93 件)の修繕を実施した。	各小学校の老朽化した建築物及び空調設備、消防用設備、衛生設備等の修繕を行う。老朽化した安富祖小学校の正門を修繕する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
うんな中学校ＳＤＧｓプロジェクト №22	少子高齢化や観光消費額の減少など地域の課題を解決するため中学生を中心にＳＤＧｓの取組と連携した活動を実施する。 中学生が地域の課題解決に関わって成功体験や活性化に貢献する喜びなど質の高い教育を提供する。 この活動はＳＤＧｓと同じ2030年まで継続する。	協力企業との連携もあり、早い段階で学校と調整し、課題、テーマ設定が必要である。 また、協力企業からの応募が少なくなってきている為、プロジェクトが 2030 年まで継続するため、関係機関との連携がスムーズに行くよう、コーディネーター業務の外部委託を検討する必要がある。	社会、環境、経済という３つの柱を軸に、生徒からの希望を聴取し、事業を進めることができた。 事業スケジュールの概要は前年度から組み立てることができ、企業や関係各課及び関係機関の協力のもと、事業を展開することができた。 正式な業者選定は、年度があけて決定していたが、令和 7 年度は年度内で次年度の業者を選定し、令和 8 年度スムーズに事業実施できるように改善した。	学級の枠を越えて、希望するテーマでグループ分けを行った。 「社会」をテーマにしたグループでは、生成 AI を活用しながら、レクリエーションを考え、実際の高齢者とレクリエーションをし、高齢者から意見をもらって恩納村のレクリエーションを提案した。 「環境」をテーマテーマにしたグループは、プラスチックゴミのリサイクルの過程を学び、恩納村の海岸沿いを観光客や地元の人が気軽に集めたゴミを捨てることができるゴミステーションを提案した。 「経済」をテーマにしたグループでは、村の村政要覧に中学生が村内外に伝えたいことを、関係者を招聘しインタビューを行い、特集記事を考えた。	協力企業との連携もあり、早い段階で学校と調整し、課題、テーマ設定が必要である。 また、協力企業からの応募が少なくなってきている為、プロジェクトが 2030 年まで継続するため、関係機関との連携がスムーズに行くよう、コーディネーター業務の外部委託を検討する必要があるため、令和８年度は包括協定を締結しているソフトバンクさんに協力を依頼する予定。	A	②事業を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 （令和 7 年度の課題）	課題克服に向けた取組み （令和 7 年度の取組み）	事業の成果 （令和 7 年度の成果）	今後の課題 (令和 8 年度の課題)	評価	総合判断
高校生通学等支援事業補助金（新規） No.23	恩納村から村外の高校に通学する高校生を持つ村在住の保護者に対し、高校通学等に係る経済的負担の軽減を図る目的として支援する。 居住する行政区から高校までの距離に応じ、月額 2,000 円から月額 14,000 円を上限に補助する。	引き続き、各媒体で周知する。 また、令和 7 年度高校生になる、令和 6 年度中学校 3 年生にチラシを作成しスクリレで周知した為、申請者が増となる見込みである為、準備を進めていく。	各媒体（HP、公式 LINE 等）で周知を行いオンライン申請を促した。	**【前期分】** 件数：120 件 うち窓口申請：5 件 補助額：5,360 千円 **【後期分】** 件数：116 件 うち窓口申請 0 件 補助額：6,396 千円 **延べ件数：236 件** **前年度件数 188 件** **前年比：126%**	申請件数は増加しているが、申込期限終了後に追加申請連絡が数件あったことや、卒業生数から考えると未申請の家庭もあることから引き続き、周知する。 また、オンライン申請を促し業務の簡素化を図る。	S	②現状の内容で継続

（２）　社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
青少年団体等活動助成事業 （４団体） №1	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等をとおして、健全な青少年の育成を図る。	引き続き当該事業についての周知を図り、前年度から 1 団体増の 5 団体の助成に努める。	前年度より早い時期から村内の青少年スポーツ団体･文化団体に対し助成募集を行った。	各団体へ募集を行い、1 団体への助成となった。 【前年度実績】 青少年ｽﾎﾟｰﾂ団体：3 団体 村内子ども会：1 団体 【本年度実績】 青少年ｽﾎﾟｰﾂ団体：1 団体 (ｺｰﾗﾙﾋﾞﾚｯｼﾞｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ)	早期の周知により制度利用を促すとともに、申請団体にとって利用しやすい補助メニューを検討する	C	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業 №2	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。 (アメリカホームスティ) 中高校生対象：８名	為替レートの変動に伴う物価上昇の影響によるものと思われる事業費の増大により、生徒の負担が大きくなっていることから、引き続き派遣生徒の自己負担額について検討する必要がある。	要保護･準要保護世帯の生徒については自己負担なしで派遣がなされる旨を近隣の高校やうんな中学に周知し、応募者の確保に努めた。	自己負担額の減額を図り、募集定員を上回る応募があった。また村内すべての小学校６年生の教室にて体験報告会を行い、将来事業対象となる生徒へアプローチすることができた。	応募者･事務担当者双方にとって負担軽減となるよう、申請の電子化を進める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業 №3	自然生活体験で自然にふれあうことにより、自然に親しみ、仲間と協力することをとおして社会性を身につけ、また、生活に必要な基礎的技能を身につけ、自立を促し健康で	暑さで体調を崩す子もいたことから、参加者の体調管理に十分気を配る必要がある。また村当局と連携して、引き続き運営スタッフの確保に努める。	事業実施前の事前研修やサバイバルキャンプ本番にも多くのジュニアリーダーの参加があった。	津波注意報発令により一部メニューを実施できなかったが、大きな事故もなく事業を実施することができた。 【ｻﾊﾞｲﾊﾞﾙｷｬﾝﾌﾟ応募者】 （前年度） ｼﾞｭﾆｱﾘｰﾀﾞｰ：25 名(25 名)	引き続き参加者の安全管理・体調管理に十分気を配りながら事業を実施する必要がある。	B	①現状の内容で継続

	心豊かな青少年の育成を図る。			小学６年生：21名(21名) 【田植え参加者】 ※天候不良のため中止 (前年度参加者) ｼﾞｭﾆｱﾘｰﾀﾞｰ：19名(0名) 小学６年生：19名(0名)			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
二十歳を祝う集い事業 №4	二十歳を迎える青年の新たな門出を激励すると共に、社会人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。	昨年度に引き続き、式典開始前にアトラクション等が実施できるよう対象者及び村青年団協議会と連携を図る。	村青年団協議会及び当事者で構成する実行委員の皆さんと連携し、式典開始前にアトラクション(うんな中学校吹奏楽部演奏・マジックショー)や式典後の抽選会を行うことができた。	出席者の大きな問題行動もなく安全に事業を実施することができた。 【実績】 該当者：135名 (前年度108名) ※今年度から外国人もカウント。 参加者：85名 (前年度82名) 参加率：70.0% (前年度75.9%)	引き続き成人式対象者や村青年団協議会と連携し、式典対象者の一生の思い出に残るような式典を行っていく。	A	①現状の内容で継続
社会教育教室 （うんな大学） 予定：全３講座 実績：全４講座 №5	本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の意識向上の機会とする。	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえた、魅力ある講座の企画・開催に努める。	村民から開催要望のあった講座を実施した。	前年度から開催した健康マージャン講座は講座終了後も参加者が自主的に集まり、サークル化につながった。 【実績】 ・健康マージャン講座全11回・延べ110名 ・戦争を知るﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえた、魅力ある講座の企画・開催に努める。	A	①現状の内容で継続

				(伊江島) 全1回・延べ21名 ・戦争を知るﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ （石川岳・村内） 全2回・延べ14名 ・AI講座 全1回・延べ9名 【前年度実績】 ・恩納村の戦争を知るﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ 全3回・延べ25名 ・島くとぅば講座 全8回・延べ90名 ・ライフプラン講座 全1回・延べ8名 ・健康マージャン講座 全10回・延べ90名 いずれの講座も参加者から好評であった。 【実績】 ・琉球薬膳講座(座学) 全1回・延べ43名 ・薬膳料理講座 全4回・延べ32名			

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
いきいき女性教室 予定：全１講座 実施：全２講座 №6	学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。 併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする教室を開催する。	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえた、魅力ある講座の企画・開催に努める。	村民から開催の要望のあった講座を実施した。	いずれの講座も参加者から好評であった。 【実績】 ・琉球薬膳講座(座学) 全１回・延べ 43 名 ・薬膳料理講座 全４回・延べ 32 名	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえた、魅力ある講座の企画･開催に努める。	A	①現状の内容で継続
地域ﾘｰﾀﾞｰ研修 予定：全１回 実績：全１回 №7	組織づくり支援･地域交流活性化支援・リーダー人材育成支援・就業意識向上支援	PTA 連合会や子ども会などの関連団体と連携し、ニーズを踏まえた講座の企画･開催に努める。	村民の防災に係る意識が高まっていることから、県外大学で防災に係る研究を行っている研究者及び東日本大震災を経験した大学生を招き、講演会を実施した。	行政区関係者をはじめとした村民を対象に防災に係る講演会を開催した。 【実績】 ・水害防災講演会 80 名参加	引き続き村民や関連団体からのニーズを踏まえた講座の企画･開催に努める。	A	①現状の内容で継続
楽らく子育て教室 予定：全１回 実績：全２回 №8	子育てに必要な生活習慣の大切さを学び、家庭教育の基礎づくり･仲間づくり･親子のふれ合いや絆を深める場とし、子育てに悩んでいる受講生間の交流の場とする。	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえ、魅力ある講座の企画・開催に努めるとともに、男性の参加も積極的に呼びかける必要がある。	村民から開催要望のあった講座を実施し、日曜日の午前中に講座を開催した。	参加者から好評であった。 【実績】 ・子どものしつけ講座 全１回・延べ 30 名 （うち男性参加者４名） ・親子向けマネー講座 全３回・延べ 24 名 （うち男性参加者　１名） 【前年度実績】 さらしおんぶ講座 全２回・延べ 12 名	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえ、魅力ある講座の企画・開催に努めるとともに、男性の参加も積極的に呼びかける。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
公民館講座 予定:全６講座 実績:全６講座 №9	多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、各字公民館の協力を得て、地域住民に対して学習機会を提供するとともに、地域における指導者の養成を図る。	年々開設を希望する行政区が少なくなっていることから、積極的に講座開設を呼びかける。	早い時期の開催周知及び定期的な開催勧奨周知に努めた。	当初の予定どおり 6 団体の講座開設申請及び開設を行うことができた。 【実績】 ・恩納公民館講座(1) 全 10 回:延べ 68 名 色紙押絵・・盛花・ｶｺﾞ作り・漬物づくり教室 ・恩納公民館講座(2) 全 10 回:延べ 115 名 スマートフォン講座 ・南恩納公民館講座 全 10 回:延べ 82 名 琉球芸能・エイサー講座 ・冨着公民館講座 全 10 回:延べ 150 名 三線講座 ・真栄田公民館講座 全 10 回:延べ 57 名 レジンアート・ヨガ講座 【昨年度実績】 ・3 公民館・延べ 199 名 242 ・UV レジンアート・PP バンドバッグ・盛花教室 ・スマートフォン教室 ・地域芸能教室	複数回の開催を要望する行政区や、開催の希望のない行政区もあり行政区によって状況が異なるため、過去の講座実施状況の提供など、引き続き講座情報の発信強化に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
人材育成激励金支給事業 №10	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	引き続き事業周知の徹底と対象者を把握するとともに、請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。	事業周知のためホームページ掲載を行い、申請があった際は速やかに事務手続きを行うとともに、申請様式を押印不要なものに改めるなど対象者の負担軽減に努めた。	○スポーツ面（前年度） スポーツ競技は28件の支給があった。（前年度91件） ・ソフトボール 学生:11件(17)、一般:1件(15) ・バドミントン 学生:2件(13)、一般:2件(5) ・野球 学生:3件(4)、一般:0件(0) ・陸上 学生:2件(6)、一般:0件(0) ・バレーボール 学生:1件(5)、一般0件(0) ・卓球 学生:0件(0)、一般3件(5) ・サッカー 学生:1件(1)、一般0件(0) ○文化面(前年度) 文化面は2件（ビジネスコンテスト） （前年度：2件）	引き続き事業周知の徹底と対象者を把握するとともに、請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
各種団体への活動支援 №11	社会教育分野で活動する各種団体に対し補助金を交付し、その活動を支援することにより社会教育活動の振興を図る。	引き続き各種団体の活動を継続して支援する。	今年度も各種団体の総会や事業へ参加し、年間の事業活動の把握に努めるとともに、必要に応じて指導・助言を行った。	各種団体の事業実績に基づき精査して補助額を確定した。 ○青少年健全育成協議会 5,319,000 円(決定額) 5,319,000 円（確定額） ○子ども会育成連絡協議会 1,910,000 円（決定額） 1,910,000 円（確定額） ○ＰＴＡ連合会 1,585,000 円（決定額） 1,585,000 円（確定額） ○女性会 1,000,000 円（決定額） 1,000,000 円（確定額） ○青年団協議会 443,000 円（決定額） 443,000 円（確定額）	引き続き各種団体の活動を継続して支援する。	A	①現状の内容で継続
社会課題解決探求プログラム (うんなアカデミー) №12	村内在住の中高生に向けて、社会課題を解決するビジネスプラン構築の過程を学ばせることで、ビジネスマインドの醸成及び主体性・課題解決能力等の非認知能力の向上を図る。	R7 年度新規事業	R7 年度新規事業	参加者アンケートにより、主体性・対人関係能力・協働力の向上が認められた。	当初参加者を 10 名程度と想定していたが 5 名の参加にとどまったため、周知の徹底により多くの参加者確保に努める。	C	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
文化情報センター業務 №13	文化情報センターの運営に必要な事務を行うとともに、住民に対し、図書や資料を通じて情報提供サービスにとり組み、読書活動を推進し村内外の様々な情報を提供する。	①友好図書館である石狩市民図書館との情報交換及び交流を続ける。友好図書館 10 周年を記念した催しを開催する。 ②村民の要求や時事的話題に留意し蔵書構築に努める。寄贈図書の整理を進め、書庫を有効的に活用し、開架書架の魅力的なレイアウトに努める。 ② 村内利用者の拡充	①友好図書館（石狩市民図書館）との交流として 10 周年を記念の交換展示を行い、交流を深めた。 ②継続的に資料の購入・収集、登録に取り組んだ。 ③継続的な本の特集コーナー等の設置や関係機関と連携したイベント等の実施に取り組んだ。ホームページや SNS での情報発信に取り組んだ。	①石狩市関連本 381 冊(前年度 354 冊) 今年度の登録 27 冊 広報の相互寄贈と登録を行いお互いの情報発信の周知協力をした。 ②年間増加冊数 5,577 冊 (前年度 6,306 冊) ③入館者数 75,499 人 （前年度：76,144 人） 貸出人数　29,984 人 （前年度：30,480 人） 貸出冊数　102,810 冊 （前年度：110,012 冊） 登録人数　938 人 うち村内 181 人 （前年度：1,073 人） うち村内 342 人 予約件数：1,180 冊 （前年度：1,291 冊） 蔵書累計冊数：126,203 冊	①友好図書館である石狩市民図書館との情報交換及び交流を続ける。 ②村民の要求や時事的話題に留意し蔵書構築に努める。寄贈図書の整理を進め、書庫を有効的に活用し、開架書架の魅力的なレイアウトに努める。 ③村内利用者の拡充及び新規利用者の獲得	A	①現状の内容で継続

				前年度：(120,626 冊) 開館日数：269 日 （前年度 275 日）			
		④時事的話題にも留意しつつ、行政情報提供にも力を入れる。住民自身の調べる力や情報リテラシーを高める。	④各種イベントの実施や図書の特集コーナーの設置に取り組んだ。	④本の特集 「戦後 80 周年企画　記録と未来」 「琉球人大行列展」など 他 100ﾃｰﾏの展示を企画実施 イベント 「郵便局長とつくろう！文字やスタンプで楽しむ夏のポストカード」他 合計 31 個のイベントを実施 （参加延べ人数 1365 人）	④時事的話題にも留意し、誰もが情報にアクセスできる環境を目指す。情報を受け取るだけでなく「活用できる」力をサポートする。		
		⑤村の動向に留意しサンゴの村宣言やＳＤＧｓ関連の取り組みの周知に努める。	⑤サンゴ関連事業として、イベント「ビーチクリーンして話し合おう！」「サンゴのカルタ大会」を行った。企画課とのコラボ展示 2 回。	⑤絵本 『世界一サンゴにやさしい村』をワークショップで作成した	⑤村の動向に留意しサンゴの村宣言やＳＤＧｓ関連の取り組みの周知に努める。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
	暮らしに役立つ参考業務	⑥レファレンスの周知及び関連機関との連携。共同データベースへの登録。	⑥レファレンスの周知とレファレンス協同データベースへの参加	⑥レファレンス協同データベースの事例登録が多かったことで国立国会図書館より礼状を8年連続で授与された。県内市町村でトップの登録 事例登録 102 件 ﾊﾟｽﾌｧｲﾝﾀﾞｰの作成 1 テーマ	⑥引き続き、レファレンス事例をレファレンス協同データベースに公開し、サービスの「見える化」を図る		
	子どもの読書活動推進事業	⑦読書通帳機の利用促進。企画展示やイベントを通して、コンクールの周知に努める。	⑦読書通帳機などを活用し読書推進を行なった。 調べる学習コンクールの実施 定例おはなし会に加え、あかちゃんと一緒のお話会、折り紙おはなし会、英語のおはなし会の定例化	⑦読書通帳:109名発行（累計：1397 名） 図書館を使った調べる学習コンクールで第6 回地域コンクールを開催　応募総 7 作品 ・毎週土曜日の定例おはなし会年 30 回、赤ちゃん向けおはなし会「あかちゃんといっしょ」7 回、おりがみとおはなし会 6 回、朗読サークル　ぼ～のさんによるイベントおはなし会年 3 回。 ・「えいごでおはなし会」毎月第 3 土曜日開催年 10 回。	⑦読書通帳機の利用促進。企画展示やイベントを通して、コンクールの周知に努める。コンクールを通じて「調べる力」「図書館を活用する力」をはぐくむ		

（３）　社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実(ウォーキングフェスタ) №1	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進と相互の親睦を図る。	令和６年度は出発式前に大雨が降り、参加者が雨宿りする場所が無かった為、関係課と調整してテント等の準備をして改善する。	赤間総合運動公園（陸上競技場）を会場（発着点）に変更し、前年度の課題解消に加え、運動イベントとしての印象を高めるとともに安全の確保を行うなどの工夫を行った。	昨年度と同様、産業まつりとの同時開催で実施し、健康増進の意識高揚につながった。 ｳｫｰｷﾝｸﾞﾌｪｽﾀ 参加者：157 名	会場及びコースの充実を図り、関係課と連携し改善していけるようにしたい。	A	①現状の内容で継続
(スポーツ教室) №2	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、ニュースポーツ体験や健康運動指導、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続しアンケート調査の結果を踏まえ、開催時期やメニューを講師やスポーツ推進委員と検討し実施する。	夜間に教室を開催し、「ピラティス・ストレッチ・自重筋トレ」を南部地区 3 回、北部地区 3 回開催した。また教室終了後、次年度以降の参考とするため、参加者から開催時期や時間、内容等の要望や教室の実施方法に関するｱﾝｹｰﾄ調査を行った。	参加者の健康増進への意識高揚につながった。 北部地区 (瀬良垣公民館にて実施) 延べ 30 名　計 3 回 南部地区 (塩屋公民館にて実施) 延べ 15 名　計 3 回	事業を継続しアンケート調査の結果を踏まえ、開催時期やメニューを講師やスポーツ推進委員と検討し実施する。	A	①現状の内容で継続
(壮年ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ) №3	壮年層の村民に対し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、ｽﾎﾟｰﾂをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図り、参加チームを増やすように努める。	スポーツ推進委員定例会で大会運営の調整及び教育委員会年間行事予定により周知活動を行った。	参加チームが前年度より多く事業を行うことが出来た。 参加チーム：10 チーム （R6 年 8 チーム）	事業を継続し、ｽﾎﾟｰﾂをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図り、参加チームを増やすように努める。	A	①現状の内容で継続
(壮年ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ) №4	壮年層の村民に対し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	スポーツ推進委員定例会で大会運営の調整及び教育委員会年間行事予定により周知活動を行った。	参加チームが前年度より多く事業を行うことが出来た。 参加チームに大会運営協力をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。 参加チーム：15 チーム （R6 年度 14 チーム）	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
スポーツ推進委員の資質向上 №5	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	引き続き、県や中頭地区での研修への積極的な参加を促し、委員の資質向上に努めるとともに、研修の成果を各委員が自主的に発揮するよう村各種事業を企画・運営する。	県や中頭地区での研修に積極的に参加した。 また、村や中頭地区で行われる大会や研修をスポーツ推進委員自ら企画し実施した。 村研修：11 月（フレスコボール・スカットボール・パークゴルフ）	スポーツ推進委員活動数及び内容 ・第 49 回壮年ソフトボール大会　（8 名） ・第 42 回壮年バレーボール大会　（8 名） ・第 54 回村少年野球大会　（7 名） ・第 24 回小学生駅伝大会　（6 名） ・その他、定例会・研修等 令和 7 年度：228 名 （令和 6 年度:202 名）	引き続き、県や中頭地区での研修への積極的な参加を促し、委員の資質向上に努めるとともに、研修の成果を各委員が自主的に発揮するよう村各種事業を企画・運営する。	A	①現状の内容で継続
恩納村スポーツ協会、 国頭郡体育協会 の活動支援 №6	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	引き続きスポーツ協会主催の事業展開及び体育施設の利用等の支援を継続し、各種目の競技力向上とスポーツ振興を支援する。	スポーツ振興、競技力向上に繋がるような事業展開の提案、施設の有効活用（各区体協の練習会場の調整）等の指導助言を行った。	国頭郡大会においてラグビー、ソフトボール、男子バレー、男子バドミントンなどで優秀な成績を収めた。 ・ラグビー　準優勝 ・男子ソフトボール　優勝 ・男子バレー　優勝 ・男子バドミントン 優勝 ○恩納村スポーツ協会 5,976,000 円（決定額） 5,049,163 円（確定額） ○国頭郡体育協会 3,852,000 円（決定額） 2,815,874 円（確定額	引き続きスポーツ協会主催の事業展開及び体育施設の利用等の支援を継続し、各種目の競技力向上とスポーツ振興を支援する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
村立小学校体育施設（プール）の一般開放事業 №7	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。	夏休みプール一般開放を行い、熱中症予防や事故防止対策をプール管理人と連携しながら行い、安全なプール開放を実施する。	プール管理人と連携しこまめに水分補給や休憩を取るよう、利用者へ促した。また、天気の急な変化に伴って開放を中止したこともありその都度、村HPを活用してお知らせを行った。	夏休みプール開放事業利用延人数（前年度） 全校：262名(269名) 安富祖：63名(21名) 恩納：71名(66名) 仲泊：20名(52名) 山田：108名(130名)	継続して夏休みプール一般開放を行い、熱中症予防や事故防止対策をプール管理人と連携しながら行い、安全なプール開放を実施する。 また、プール管理人の人員確保の課題があることから、確実に確保できる体制の構築を図る。	B	①現状の内容で継続
各種団体等県外派遣補助事業 №8	村民のスポーツに対する意欲を向上させ、各種球技、競技の振興を図る。	引き続き事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集を行うとともに、学校や公民館等と連携し、速やかな申請手続きを促す。	派遣事業に該当する団体の情報収集、学校や公民館への情報提供、周知徹底に努めた、速やかな申請手続きを行った。	○小中高生・一般(前年度) ・サッカー2件（0件） ・バレー3件（0件） ・バスケット1件（0件） ・陸上2件（2件） ・バドミントン8件(1件) ・野球2件（0件） ・ソフトボール7件(0件) ・レスリング1件（1件） ・弓道3件（0件） ・マイコンカーラリー3件（0件） ・管打楽器1件（0件） ・パソコン1件（0件） ・ダンス1件（0件）	事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集を行うとともに、学校や公民館等と連携し、速やかな申請手続きを促す。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
村体育施設維持管理事業 №9	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	機能強化整備計画にて計画した整備を実施していくので引き続き関係部署や機関と連携し事業を実施していく。 また施設の維持管理徹底とプロ野球やスポーツ合宿等の受入れを含め、村と指定管理者で綿密に連携する。村民等が活用しやすい施設運営や環境を提供する。	機能強化整備計画にて計画した通信等整備工事や転落防止柵設置工事を行った。 施設利用率向上に向けて施設維持管理徹底の指導や、定例ﾐｰﾃｨﾝｸﾞを行い問題解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。	令和７年度 利用者 135,564 人 利用回数（3,114 回） 令和６年度 利用者　117,560 人 利用回数（2,648 回） 令和５年度 利用者　126,272 人 利用回数（2,259 回） 令和４年度 利用者 98,356 人 利用回数（2,311 回）	機能強化整備計画にて計画した整備を実施していくので引き続き関係部署や機関と連携し事業を実施していく。 また施設の維持管理徹底とプロ野球やスポーツ合宿等の受入れを含め、村と指定管理者で綿密に連携する。村民等が活用しやすい施設運営や環境を提供する。	A	①現状の内容で継続

（４）　「幸せに生きる力」育成・支援委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
地域学習塾支援 №1	「幸せに生きる力」育成・支援委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら知･徳･体の子どもの育成を図る。	各自治会の運営担当者の減少が課題となっている。	活動内容の見直しを図り、科学実験やスポーツ体験活動など、外部団体への委託活動を可能にした。	地域塾を実施した自治会は昨年度１０自治会から１２自治会等へと増加した。 内容は、学習支援や工作、自由研究、調理活動など各自治会の工夫が見られた。	持続的な事業とするために、引き続き各自治体が運営しやすい方法に改善していく必要がある。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
中学生交流 №2	地理・歴史・文化の異なる自治体との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	令和７年度は派遣年度となるため、しっかりと準備して事業が実施できるようにしていく。 また他市町村の交流も増えている為、令和７年度は事業名を石狩交流事業から交流事業に変更する。 （他予定：長野県川上村、石川県能美市、広島県坂町）	石狩市交流事業を実施できた。 アンケートの実施や生徒に報告書を作成させる活動を行い、その成果を同学年に向けて発表する報告会を開催した。	・石狩市交流 うんな中学校の生徒が、花川中学校の生徒と交流でき、沖縄ではできない体験をすることができた。 参加生徒へのアンケート実施で交流会に参加して良かった・まあまあ良かったが 100%であった。 派遣決定生徒 20 名 (参加生徒 20 名) ・石川県能美市交流 うんな中との交流では互いに学校紹介をし、給食交流などで交流を図った。 また、サンゴ苗作りや、琉球グラス絵付け体験等を行い、恩納村ならではの交流にもなったと思う。 能美市参加者 市内中学生徒 20 名 職員　3 名	友好市町村等との交流も増えているので、社会教育課・学校教育課で連携し、事業が円滑に実施できるよう取り組む必要がある。 （予定：北海道石狩市、長野県川上村、石川県能美市、広島県坂町） 。	A	① 現状の内容で継続

				・長野県川上村交流 川上村の交流ではうんな中の生徒とグループを組んでグループ対抗フォトフレームづくりをして交流を図った。グループで１つのものを作ることで交流が深まった。 川上村参加者 川上中学校　27 名 ※1 人キャンセル 引率　4 名			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
講演会 №3	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づいた村全体としての講演会を開催する必要がある。	安富祖小学校公開授業時に、マイプラン学習に関する県外研究者を招聘し全教職員対象に開催した。	全教職員が講演会に参加することで、全小中学校でのマイプラン学習の充実につながった。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づいた村全体としての講演会を開催する必要がある。	A	①現状の内容で継続
県外先進地視察研修 №4	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	継続して先進地視察を実施し、恩納村教育ビジョンの着実な推進につなげる必要がある。	石川県加賀市立小中学校へ、新任管理職、研究主任、指導主事で視察訪問を実施した。 兵庫県神戸市立長田中学校へ、うんな中学校職員、指導主事で視察訪問を実施した。	県外先進地視察通して、「マイプラン学習」を全小中学校で実践することができた。また、安富祖小学校が研究発表を行い、村内学校の授業改善につながった。	継続して先進地視察を実施し、恩納村教育ビジョンの着実な推進につなげる必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	評価
育成・支援実践報告会 №5	「幸せに生きる力」育成・支援の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づいた実践報告会を開催していく必要がある。	村全体研修会や各学校の校内研修会において、恩納村教育ビジョンの取組に対する伴走支援を行った。	各学校区で「恩納村教育ビジョン」に基づいた実践報告会を開催することができた。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づいた実践報告会を開催していく必要がある。	A	①現状の内容で継続
諸検定料支援 №6	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。	受験者数は小学校減、中学校も減になった、合格率は小学校微増、中学校減になった。引き続き自分の実力にあった級を受験するよう伝えていく。 また、教員の働き方改革により、検定事務を小学校で行わない事になり、さらなる受験者減が想定される。	小学校での検定受験は、小学校開催から、村 PTA 連合会の事務局が担うことになり、引き続き団体受験を開催することができた。	検者数（合格者数） 【英検】 小学校 0 名（0 名） 中学校 130 名(66 名) （合格率 51.0%） 個別 27 名(19 名) （合格率 70.3%） 【漢検】 小学校 66 名（52 名） （合格率 78.7%） 中学校 85 名(26 名) （合格率 32.0%） 個別 9 名(６名) （合格率 66.6%） 【数検】 小学校 32 名(不明) 中学校 30 名（17 名） （合格率 58.0%） 個別 8 名(5 名) （合格率 62.5%） 総受検者数（前年度） 合格率（前年度） 全体：355 名（779 名） 53.0%（51.7%）	県教育委員会の方針として各種検定の学校開催は行わないとなっている。そのため受験者数の減少となっているが、引き続き検定料支援は継続していく必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
未来塾 №7	高校受験を控えた中学校３年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	「自立した学習者」を育成するために、通常の未来塾学習の他に、高校進学や大学進学、キャリア形成に向けた若手経営者等の講師による講演会を開催する必要がある。	未来塾運営の協力者として、学習塾 NEXT GENERATION と提携し、名桜大学講師へのアドバイス、うんな中学校生徒へのキャリア講演会を開催した。	昨年度７０人の受講者数から、８７人に増加した。 令和７年度受講者数 １年：２３人 ２年：２１人 ３年：４３人 参加生徒進学率 令和７年度：100％	継続して未来塾を開催し、「自立した学習者」の育成に努め、３年生の高校進学への支援を行う必要がある。	A	②事業を拡大して継続
スキルアップ研修 №8	各学年・教科１人体制という課題を解決するため、村内教職員職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づく各プロジェクト会の充実を図る必要がある。	各小中学校の「自律」「協働」「創造」のプロジェクトメンバーによる対話型の研修会を開催した。	「自律」プロジェクトにより「マイプラン学習」の推進、「協働」プロジェクトにより「児童会・生徒会活動」の充実、「創造」プロジェクトにより、「探究的な学び」の推進が図られた。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づく各プロジェクト会の充実を図る必要がある。	A	①現状の内容で継続
各種コンクール №9	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	「学校給食ポスター・作文・標語」の役場ロビー展示を給食週間に合わせる必要がある。	給食センターと連携し、給食週間に合わせて審査会を行い、全作品を役場ロビーにて展示することができた。	児童生徒の作品を、役場ロビーにて展示することにより、地域住民に見て頂く機会となった。	継続して「学校給食ポスター・作文・標語」コンクールは実施していく必要がある。	A	①現状の内容で継続

（５）　博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
博物館運営 №1	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	リニューアル事業に伴う自然展示室の創設及び村内各学校への出前講座や展示会、各種文化講座などにより地域の特色ある文化活動の情報発信を行えるよう、博物館活動の活性化を図る。	・企画展や各種講座などの事業実施に際し、SNSやLINEや博物館HPを活用して広報を実施した。 ・村内関係団体と継続して連携し、サンゴの村宣言や自然環境など役場関係課と連携しながら事業を実施した。 ・うんな中での出前講座（座学・野外学習）をはじめ、村内学校への出前授業では内容の創意工夫を行い、実施し、内容の充実を図った。 ・継続して社会教育育成団体の活動支援を行い、村民の施設利用の増加を図った。 ・村内学校を中心に県内の学校などの総合学習に関する授業等受入及び連携を図った。	**・博物館利用実績** 開館日数290日 博物館利用者数19,339人 (前年度16,584人2,755人増) 入館者16,654人 (前年度14,262人2,392人増) 施設等使用者2,685人 前年度施設等利用者2,312人374人増 ・主に文化係（博物館・文化財）で１回の特別展、企画展４件、会場貸し展示会４件、７件の講座等を開催した。 施設利用団体数 延べ 198 件（前年度182件） ・村内学校の受入対応、出前授業　計15件 （学芸13回、文化財2回） 職場体験　１件	村内各学校への出前講座や各種文化講座などを取り組むとともに、展示会などを通して地域の特色ある文化活動の情報発信を心掛け、博物館活動の活性化を図る。	A	①現状の内容で継続

			・より利活用しやすい施設とするため博物館設備の修繕などに取組んだ。 ・防災の日に「うんな防災フェスタ」にておんなの駅・役場、博物館・文化情報センターで連携して各種イベントに取り組んだ。 　連携事業として博物館では、 南相馬市の津波や村の防災取り組みなどを紹介する展示会を実施。	・野外の転落防止柵、高架水槽等の修繕をし、利用者が安心して使用できるよう設備管理を実施した。 ・防災イベントとして展示会及び協働で事業を実施した。11 月 2 日イベント日には 350 名もの来館者があり盛況。 企画展「3．11 写真展」、期間：10/31～11/3（4 日間） 来場者：491 名			

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
企画展・展示会 №2	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。	2025年は戦後80年を迎えるため、総務課村史編さん係と共同で、これまでの慰霊の日特別展の展示成果の集約した冊子の作成と展示会を開催する。	**主催事業** ①令和 7 年度慰霊の日特別展「沖縄戦から 80 年ーうんなのイクサユを振り返るー」 戦後 80 年ということで長期間にて開催した。 学芸担当の展示では、「教育勅語謄本」、「青少年学徒に賜りたる勅語」など博物館が所有する当時の現物資料を展示した。 また、戦後 80 年の節目にこれまでの慰霊の日特別	**主催事業** ①令和７年度慰霊の日特別展「沖縄戦から 80 年ーうんなのイクサユを振り返るー」 期間：6/6～10/5（100 日間） 来場者：5,234 名 ※前年度 36 日間、1,935 名	村内の自然・歴史・文化に関する企画展を企画・開催するとともに新収蔵品展及び各種団体の展示会場の受け入れなどに取組む。	A	①現状の内容で継続

			展の展示成果を集約した冊子を制作・刊行した。 ②企画展『「標本」について知ろう』 　常設展示「自然ゾーン」オープンを記念し、自然史標本の種類を紹介する企画展を開催。常設展示では展示していない資料などを活用するなど工夫した。 **共催事業** 沖縄県立博物館・美術館「移動展 in 恩納村」 　県立博物館・美術館と共催で「移動展 in 恩納村」を開催。オープンセレモニーでは、うんな中の生徒会長にも挨拶を行ってもらった。展示の目玉であるカムイサウルスの全身骨格標本の展示や沖縄の自然・歴史・文化・芸術など総合的な分野の展示を行った。 **協力事業** 恩納小学校卒業制作壁画作品展 来館者：364 名 **会場貸出** 計 4 件、来場者計 1,809 名	②企画展『「標本」について知ろう』 期間：11/8～11/24 来場者：678 名 **共催事業** 沖縄県立博物館・美術館「移動展 in 恩納村」 期間：1/16～2/11 来場者：2,907 名 特に開催期間に合わせ、村内小学校の博物館利用があったほか、村内外の幼稚園や保育所など幼児の見学も多かった。関連催事として、ジオツアーなど計 7 件のイベントも開催された。 **協力事業** 恩納小学校卒業制作壁画作品展 来館者：364 名 **会場貸出** 計 4 件、来場者計 1,809 名			

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
博物館講座 №3	博物館主催の講座をとおして、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	人気の講座については継続するとともに、村のサンゴの村宣言や SDGs プロジェクトの普及啓発に貢献できる講座を企画し、実施していく。	①自然観察会「サンゴの観察会」 近年の海水温上昇や海への赤土流入などの影響により、今年度は産卵観察が難しかったため、サンゴの白化の現状について知る観察会を実施した。 ②博物館講座「トウツルモドキでカゴ作り」 村内に自生するトウツルモドキを利用し、カゴを作るワークショップ。 毎回、初回受講者を対象に継続して実施している。 ③講座「しまくとぅばの文芸作品に触れてみよう」（共催：沖縄国際大学） 恩納ナビーや吉屋チルーの琉歌などを題材に、琉球語・琉球文（しまくとぅば）を中心とした沖縄独自の文芸である「オモロ」、「琉歌」、「組踊」、「琉球民謡」、「沖縄芝居」などについて解説してもらった。	①自然観察会「サンゴの観察会」 開催日：10/6 対象：村内小３～高３ 参加者：小学生 12 名、中学生１名、大人関係者１名 ②博物館講座「トウツルモドキでカゴ作り」 開催日：11/22、23 参加者：9 名（1 名欠席） （定員 10 名、応募数 14 名） ③講座「しまくとぅばの文芸作品に触れてみよう」（共催：沖縄国際大学） 開催日：2/14 参加者：14 名	本村の自然、歴史、文化の発信拠点として貢献できる企画講座及び継続講座の実施に取り組む。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
サンセットコンサート №4	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	令和 7 年度は関係者の意見や前回までのアンケート内容を参考にし、村民が村内で優れた音楽等に触れる機会を創出する。	地域伝統芸能等保存事業の取り組みの成果を活用し、地元の伝統芸能を発表できる機会を計画した。	今年度、実施していた地域伝統芸能等保存事業に遅れが出てしまい、年度内にサンセットコンサートを開催して発表に漕ぎつけるまでに至らなかった。	村民が村内で優れた音楽等に触れる機会を創出することももちろんだが、中学校吹奏楽部などが発表できる場ともなるよう企画をしていく。	D	①現状の内容で継続
『恩納村博物館年報・紀要』の刊行 №5	博物館の過年度の活動に関する情報をまとめることで、記録を残し、将来的な資料とする。『恩納村博物館紀要』と『恩納村博物館年報』を隔年にて発刊	次年度は『恩納村博物館紀要』の刊行を予定。 恩納村の自然、歴史、文化にかかわる原稿を募集する。	博物館文化係や村史編さん係から原稿を募集し、5 名から計 7 本の原稿の応募があった。	『恩納村博物館紀要』第 14 号を刊行した。 琉球王国時代の造船所跡に関する考察や戦争遺跡や護郷隊に関するものや村内学校の野外学習、自然観察会に関する報告を掲載した。	次年度は『恩納村博物館年報』の刊行を予定。令和 6･7 年度の博物館活動についてまとめた年報を刊行する。	A	①現状の内容で継続
地域伝統芸能等保存事業 №6	一般財団法人地域創造の事業を活用し、地域に伝承される伝統芸能等の映像を記録することにより、今後の更なる伝統芸能の伝承及び地域活動を支援する。	南恩納区と連携し、助成事業の成果品を完成させるとともに、地域の踊りや組踊の型の保存･継承を支援する取り組みとする。	一般財団法人地域創造からの助成決定を受け、南恩納区の豊年祭の映像記録保存事業を実施した。 製作にあたっては南恩納区と連携を図り、地元の要望に応えられるよう十分な配慮を行った。	実行委員会から始まる諸行事から旗スガシといった拝み行事を含め、豊年祭当日までを撮影、編集した本編を製作した。また、代表的な踊りの解説をつけた解説編も製作した。	社会環境が大きく変化し、地域の伝統行事や芸能の継承は厳しい状況にあるため、地元から要望のあるものから映像記録保存事業を実施していく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
常設展示室リニューアル事業 №7	開館 20 周年の節目を機に、既存の常設展示に加え、自然史分野の展示を発展・充実させた常設展示の再構築のため、「自然ゾーン」を新設し、博物館活動の更なる発展を図っていく。	常設第 2 展示室の自然ゾーンの展示を完成させ、常設展示の一部リニューアルを完了させる。	・展示検討委員会を開催し、専門家より展示全般について意見を聴取した。 ・前年度改修した常設第2展示室に標本などの資料を展示し、作成した解説パネルなどの配置する展示作業を行った。展示パネルを自作するなどし、自前でほとんどの作業を行うことで必要予算の低減に努めた。	令和 7 年 9 月 30 日にオープンセレモニーやテープカットを行い、常設展示に自然史分野の展示を発展・充実させた「自然ゾーン」を新設した。	今後、必要に応じて展示の入替を行い、魅力ある展示の充実を図っていく。	S	② 事業の廃止
文化財普及事業 №8	恩納村の共有財産である文化財の普及及び活用を目的とし、文化財保護愛護思想の啓発を図る。	次年度は戦後 80 年となるため、学芸担当や村史編さん係と情報共有を行い、違う視点を持った展示を行う。	①令和 7 年度慰霊の日特別展「沖縄戦から 80 年ーうんなのイクサユを振り返るー」 文化財、学芸、村史の 3 係合同の展示会を開催。村内の戦争遺跡の現況に着目し、新しい試みとして、住民避難壕や塩屋公民館の壕の調査時の映像を公開した。 ②講座「山田城跡講演会～掘り出された山田城～」 昭和 61 年～63 年まで発掘調査を担当した沖縄国際大学名誉教授・上原静氏を講師に迎え、グスクと	①令和7年度慰霊の日特別展「沖縄戦から 80 年ーうんなのイクサユを振り返るー」 期間 ①6/6～10/5（100 日間） 来場者：5,234 名 ②10/6～12/12 来場者：3,307 名 ※前年度 36 日間、1,935 名 ②講座「山田城跡講演会～掘り出された山田城～」 開催日時：11 月 15 日 14 時～15 時 30 分 対象：村内在住、在勤者優先、定員：30 名	毎年実施の土器づくり講座の講師が高齢により令和８年度は講師を辞退。実施方法について検討し、取り組む。	A	①現状の内容で継続

			当時の発掘調査で分かったことを講演していただいた。 ③土器作り講座(全 3 回) 講師指導の下、参加者に実際に土器の成形や野焼きを体験してもらうことで、当時の人々の暮らしぶりについて理解を深める機会として実施。 ④国頭地区文化財行政連絡協議会「戦後 80 年企画事業 やんばるの沖縄戦」 沖縄本島北部の 12 市町村で組織する国頭地区文化財行政連絡協議会で「やんばるの沖縄戦」と題し、各市町村で巡回展を開催。 ⑤出前講座「うんな中学校歴史の道」 うんな中学校の 1 年生の総合学習「地域を知る」の一環として、中学校を訪問しての講座を実施した。１回目は講座形式、２回目は現地見学を実施した。	参加者：35 名 ③土器作り講座(全 3 回) 1 土作り(12/6)17 名 2 土器作り(12/7)17 名 3 土器焼き(12/13)17 名 延べ人数：51 名 ④国頭地区文化財行政連絡協議会「戦後 80 年企画事業 やんばるの沖縄戦」 開催期間：11/28～12/12 来場者：985 名 ⑤出前講座「うんな中学校　歴史の道」 開催日：講座 6/11 現地見学 6/25 対象：うんな中 1 年 117 名			

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
山田城跡重要遺構確認調査 №9	国指定史跡山田城跡の整備に向けて取り組む。	山田城跡重要遺構調査を引き続き実施する。令和７年度は城壁の発掘調査を７箇所実施する。	文化庁補助事業を活用し、継続して山田城跡重要遺構確認調査を実施した。3 箇所の発掘調査に取り組む。	山田城跡重要遺構確認調査を実施した。令和７年度は 3 箇所の調査を実施。石積みの検出をし、城壁の現状と構造を確認。整備に向けた基礎情報の蓄積を図った。	重要遺構確認調査を引き続き実施する。令和８年度は城壁の発掘調査とあわせて、これまでの発掘調査で得た情報の資料整理を行う。	B	①現状の内容で継続
沿岸・水中遺跡分布調査 №10	文化庁補助事業を活用し、埋蔵文化財の把握と周知・保護のために村内の沿岸及び水中遺跡を調べる分布調査に取り組む。	令和７年度は、恩納地区から冨着地区までの範囲で分布調査を実施する。また、併せてこれまで調査した資料整理を実施する。	村内中部の恩納から冨着地区までの沿岸部および海域部分における遺跡分布調査に取り組む。 周知・活用のため調査成果を基に企画展「恩納村沿岸・水中遺跡分布調査速報展」を開催した。	対象地の沿岸部の踏査の結果、新たに地域で利用された石切場跡を数か所新たに発見した。海底調査では、谷茶沖にて沖縄産陶器や恩納沖で古手の錨を確認することができた。 企画展「恩納村沿岸・水中遺跡分布調査速報展」 期間：10/11～10/26 （13 日間） 来場者：632 名	令和８年度は、前兼久地区から宇加地地区までの範囲で分布調査を実施する。また、併せてこれまで調査した資料整理を実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
山田城跡公有地化事業 №11	山田グスクの公有地化事業を実施し、指定地内７割以上の公有化に取り組む。 指定地面積 43,132.37 ㎡	地権者未相続土地について、相続権者と調整し、相続後に補助事業を活用して公有地化事業を実施する。 令和７年度は相続権者に協力調整をし、今後の協力を求める。	文化庁補助金を用いて公有地化事業を継続して実施した。5 箇年計画で指定地の 70%を公有地化にする取り組み。 R2　10,974 ㎡公有地化（40%達成） R3　8,245 ㎡公有地化（59%達成） R4　5,244 ㎡公有地化（71%達成） R5　4,337 ㎡公有地化（81%達成）	令和 7 年度は、相続権者及び土地情報の収集を中心に実施した。 公有地化済 35,112.37 ㎡(81%)	今後の公有地化に向けて、事業を進めるための手段を情報収集するとともに引き続き、粘り強く相続権者の協力調整を行い、協力を求める。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
恩納村文化財指定業務 №12	村内に所在する貴重な文化財の中から村指定候補を調査、検討し村指定文化財の増加を図る。 恩納村指定文化財 ① 史跡 真栄田の一里塚 ② 有形文化財(民俗) 浜崎御嶽、ｶﾝｼﾞｬｶﾞｰ、ｳﾄﾞｩｲｶﾞﾏ、南恩納の龕 ③ 歴史資料 唐人墓の墓碑、恩納村の印部石、国頭郡恩納間切各村全図及び字図等 ④ 書跡 徐保光詩文、王文治詩文 計 10 件	指定候補となる文化財リストを作成し、リストにある文化財について情報収集を実施する。	文化財の推進に向け、関係資料の収集や既存データの整理を行い、候補指定に向けた基礎的検討を行った。	文化財指定に向けた課題整理を行い、今後の指定に向けた基礎資料の蓄積を図った。	引き続き指定候補となる文化財について情報収集を行う。	B	①現状の内容で継続
万座毛植生環境整備事業 №13	沖縄県補助金を活用し万座毛遊歩道地区の整備を実施する。	第一工区アダン伐採箇所からシバを移植した範囲にアダンが侵入しないよう定期的にモニタリングを行い、侵入が確認されたものについては伐採を行う。	第一工区アダン伐採箇所からシバを移植した範囲にアダンが侵入しないよう定期的にモニタリング調査を行った。	第一工区のシバの移植した範囲にアダンが侵入しないようアダンの伐採等を実施。シバのモニタリングをしたところ順調な生育を確認した。	引き続き、第一工区の植物のモニタリングを行い、その経過を第二工区実施に活かす。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
万座毛遊歩道改修工事 №14	遊歩道の経年劣化や年々増加する万座毛遊歩道の利用者に対応するために万座毛遊歩道改修工事を実施する。	新規事業	遊歩道の経年劣化及び利用者の増加に伴う安全性・利便性向上を図るため、現況把握を目的として測量業務・設計業務委託を実施した。	業務の実施により、工事実施に向けた基礎資料の収集を行うことができた。今後の円滑な遊歩道整備設計の推進に資するものとなった。外部委員会で審議及び担当部局との協議に時間を要することから次年度への繰越事業となった。	設計成果を基に工事の具体化を図るとともに、利用者の安全確保及び利便性に向上に配慮した整備を進めていく。	B	①現状の内容で継続
各種団体への活動支援 №15	文化教育分野で活動する恩納村文化協会に補助金を交付し、文化に関する各種団体の活動を支援することにより文化の振興を図る。	引き続き、村文化協会の活動を継続して支援する。	今年度も文化協会総会への参加、文化祭、文化展への協力及び事務調整等を実施。必要に応じて、指導・助言を行った。	文化協会の事業実績に基づき精査し、補助額を確定した。 〇恩納村文化協会 3,520,000 円（決定額） 3,520,000 円（暫定額）	引き続き、村文化協会の活動を継続して支援する。 万座毛を訪れ、300 年を経過した尚敬王に関する事業を支援する。	A	①現状の内容で継続

（６）　学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
栄養教室の開催 №1	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。 **【学校給食の目的】** ①適切な栄養の摂取による健康の保持増進をはかること。 ②日常生活における食育について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。 ③学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。 ④食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。	継続して各学校と連携して、食育年間指導計画を作成し食育指導を行う。巡回指導を増やし更なる食育指導の充実を図る。	県教育委員会から給食センターに配置されている栄養職員で巡回指導、食育授業を行った。 給食週間に役場ギャラリーでパネル展示及び各学校へ展示物、動画の配布を行った。 食育授業 恩納幼稚園　１回 山田小学校　６回 仲泊小学校　６回 恩納小学校　６回 安富祖小学校　６回 うんな中学校　３回 （前年度） 恩納幼稚園　１回 山田小学校　７回 仲泊小学校　６回 恩納小学校　６回 安富祖小学校　６回 うんな中学校　４回	巡回指導、食育授業を実施し、食の大切さや食に対する関心を持つことができた。	継続して各学校と連携して、食育年間指導計画を作成し食育指導を行う。巡回指導を増やし更なる食育指導の充実を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
	⑤食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについて理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。 ⑥我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。 ⑦食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。						
村産食材の積極的な活用 №2	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	おんなの駅、農水関係者と定期的な連絡会の開催や農家を巡回し意見交換を行う。	年間を通して、地場産物を使用した。 毎月 19 日の「食育の日」に、モズク、アーサ等地元の食材を使った給食を提供し、地産地消の推進を図った。 安富祖水稲部会と安富祖米使用にむけ調整を行った。	おんなの駅や農水関係者と連携を図り地場産物を提供することが出来た。 村産野菜の使用料が増えた。※小松菜、冬瓜、ネギ、ニラ等 安富祖米は使用できなかった。 モズク年間使用料 242 kg アーサ年間使用料 122 kg	おんなの駅、農水関係者と定期的な連絡会の開催や農家を巡回し意見交換を行う。 水稲部会と安富祖米使用にむけ調整を継続して行う。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和７年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和７年度の取組み)	事業の成果 (令和７年度の成果)	今後の課題 (令和８年度の課題)	評価	総合判断
給食センター見学の推進 №3	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	今後も継続して日程調整を行い見学受け入れを行う。	給食センター見学受け入れを行った。 【見学実施日】 6/26　恩納幼稚園 6/19　恩納小 2-1 9/30　恩納小 2-2 1/23　安富祖小 2	調理場見学を実施し、給食が多くの人の手で作られていることや、使用器具の大きさなど、見学を通して、給食に対し関心を持つことが出来た。	今後も継続して日程調整を行い見学受け入れを行う。	B	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上 №4	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。	今後も継続して、長期未納者へ面談等納付指導、納入計画の提案を行い自主納付を促す。 不納欠損処理の検討。	教職員の給食費徴収。 過年度未納者に対し､年３回の督促状の送付及び納付相談を行った。 不納欠損処理について他市町村の情報収集を行った。	○過年度分徴収率 令和７年度：29% ※過年度納付額 163,300 円 令和６年度：9% 20%増	今後も継続して、督促状の送付等徴収に取り組む。長期にわたり回収が困難な未納分については、実態を踏まえ、不納欠損処理に向けた検討を行う。	B	①現状の内容で継続

4　外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成委員及び意見の内容は次のとおりです。

(1)　恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会(令和８年７月２日現在)

役　職	氏　　名	任　　期	備　　考
委　員　長	星　野　文　彦	令和８年７月２日～当該年度の事務事業外部評価完了まで	元村 PTA 連合会会長
副 委 員 長	小　谷　久　美	令和８年７月２日～当該年度の事務事業外部評価完了まで	元村婦人会会長
委　　員	大 城　　敦	令和８年７月２日～当該年度の事務事業外部評価完了まで	元行政区区長

(2)　意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、令和８年７月２日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受け、評価を行いました。また７月２４日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行いました。その結果を答申いたします。

記

１．事務事業の点検評価について

教育委員会の事務事業の点検及び評価については、事務事業評価シートに基づき、事業目標、事業成果、今後の課題及び事務事業の評価について、担当課長及び担当職員から説明を受け、事業実績や成果、自己評価の内容が適切であるかを確認するものである。

令和７年度は、全７３事業について外部評価を実施した。

事業全体としては、取組内容及び成果は概ね妥当であり、前年度の課題を踏まえた改善が図られているものと評価する。一方で、多くの事業に共通する課題として、対象者への効果的な周知方法や村民ニーズに即した事業内容の充実が挙げられる。今後は、事業内容の充実に加え、参加者の増加につながる広報手法や実施方法について、更なる工夫と改善を期待する。

なお、外部評価の中で委員から様々な意見・提言があったが、その主な内容は次のとおりである。

（１）学校教育関係事業（２３事業）

ＩＣＴ支援員配置事業は、前年に引き続き、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙における「ＩＣＴ機器をほぼ毎日活用している」と回答した児童・生徒の割合が、小学校・中学校ともに沖縄県平均を上回る成果が認められたこと、高校生通学等支援事業補助金は、本村独自の支援制度として、高校生の通学費等を助成することにより子育て世帯の経済的負担軽減に寄与し、支援件数も増加したことから、特に優れた成果を上げたものとしてＳ評価とした。

１９事業については、前年度の課題を踏まえた改善が図られ、概ね計画どおり事業が実施され、前年度以上又は同等の成果が認められたためＡ評価とした。

２事業については、概ね計画どおり実施されたものの、更なる改善の余地があることからＢ評価とした。

今後も創意工夫を重ね、より質の高い学校教育の提供に努めていただきたい。

（２）社会教育関係事業（１３事業）

１０事業については、前年度の課題改善に取り組み、村民ニーズに応じた各種教室等を実施した結果、参加者及び実施団体数の増加が見られたことからＡ評価とした。

自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業については、天候不良により一部プログラムが実施できなかったことからＢ評価とした。なお、事業名と活動内容との乖離が見られるため、事務局において事業名または事業内容を精査し、見直しを検討していただきたい。

２事業については、目標参加者数を大きく下回ったことからＣ評価とした。今後は積極的な周知や対象者への働き掛けなど更なる改善を期待する。

（３）社会体育関係事業（９事業）

８事業については、前年度の課題改善が図られ、参加者の増加や目標どおりの事業実施ができたことからＡ評価とした。

村立小学校体育施設（プール）の一般開放事業については、予定どおり実施されたものの、参加者数が減少したためＢ評価とした。

（４）「幸せに生きる力」育成・支援委員会事業（９事業）

８事業について、前年度の課題を踏まえた改善が図られ、概ね計画どおり事業を実施できたことからＡ評価とした。

地域学習塾事業については活動内容の見直し等により実施自治会が増えているが全自治会の実施とならなかったことからＢ評価とした。

（５）博物館関係事業（１５事業）

常設展示室リニューアル事業については、第２展示室に自然資料や解説パネルを整備し、「自然ゾーン」を新設するとともに、オープンセレモニーを実施するなど、施設の魅力向上に大きく寄与したことからＳ評価とした。

９事業については、概ね計画どおり実施され、前年度の課題改善も図られたことからＡ評価とした。

４事業については、概ね計画どおり実施されたことからＢ評価とした。

サンセットコンサートについては、関連事業の遅延により実施できなかったためＤ評価とした。評価については真摯に受け止め、事業の課題解決に取り組み、計画的な事業の推進を期待する。

（６）学校給食センター関係事業（４事業）

栄養教室開催事業については、前年度の課題を改善し、新たにうんな中学校での食育授業を実施したことからＡ評価とした。

３事業については、概ね計画どおり実施されたことからＢ評価とした。村産食材の活用については、生産者や関係機関との連携を更に強化し、地産地消の推進に努めていただきたい。

また、給食費未納対策については、法令等に基づき不納欠損処理についても適切に検討し、財政の健全化に努められたい。

２．まとめ

事務事業の点検及び評価は、事業成果を確認するとともに、課題を明確にし、その解決を次年度の目標へ反映させるというＰＤＣＡサイクルを着実に実践するための重要な取組である。

今回の評価結果については、次年度以降の教育目標、事業執行、予算編成及び事務改善等へ積極的に活用するとともに、職員一人ひとりが点検評価の趣旨を十分理解し、村民ニーズを的確に把握した上で、受益者である村民の視点に立った事業展開に努めていただきたい。

今回の評価では、前年度と比較してＳ評価及びA評価が増加しており、教育行政全体の取組が着実に成果を上げていることを高く評価する。一方で、Ｄ評価が１事業、Ｃ評価が２事業あったことについては真摯に受け止め、原因を十分分析し、改善に取り組まれたい。

最後に、教育行政に携わる職員の今後ますますの活躍を期待するとともに、本答申を今後の教育行政の充実及び振興に活用されることを強く望み、外部評価委員会の答申とする

令和８年７月